## 時間領域分光法によるテラヘルツ波用中空光ファイバの伝搬特性解析 とリモート分光への応用

Analysis of transmission properties of terahertz hollow-optical fiber by using time-domain spectroscopy and application for remote spectroscopy

東北大医工<sup>1</sup>,東北大工<sup>2</sup>○(M2)伊藤 公聖<sup>1</sup>,片桐 崇史<sup>2</sup>,松浦 祐司<sup>1</sup>

Tohoku Univ., Graduate School of Biomedical Engineering<sup>1</sup>, Graduate School of Engineering<sup>2</sup> °Kosei Ito<sup>1</sup>, Takashi Katagiri<sup>2</sup>, Yuji Matsuura<sup>1</sup>

E-mail: kosei.ito.t1@dc.tohoku.ac.jp

femto-sec

## 1. はじめに

近年, THz 時間領域分光法(THz-TDS)は光源の高出力化・広帯域 化により,検出・分光技術が発展し,注目を集めている. 我々のグ ループでは THz 波を伝送可能なフレキシブル伝送路として中空フ ァイバを開発し,周波数領域型の THz 分光器によりその損失特性 の評価を行ってきた[1]が TDS ヘファイバを応用するためにはその 分散特性を予め把握しておく必要がある.そこで本報告では TDS に より,中空ファイバにおける THz パルスの伝搬特性解析を行った 結果について述べるとともに実際にファイバを用いてリモート分 光を行った結果について述べる.

## 2. 測定結果

測定系の概略図を Fig.1 に示す. 中空光ファイバ伝送損失の周波 数特性を測定にはファイバは内径 3 mm, 長さ 40 cm の銀内装中空 ファイバを用いた.ファイバからの出射光パルスのフーリエ変換結 果より得られるパワースペクトルと, Fig.1 内に示したようにファ イバなしの状態との比をとることにより伝送損失を計算した結果 を Fig.2 に示す. 0.5 THz 以下の周波数において損失の上昇が見られ たが、これは長波長の THz 波の焦点におけるスポットサイズ増大 による結合損失の上昇であると考えられる.一方, 1.0 THz 以上の 領域においては損失のピークがいくつか現れている. この原因をモ ード間の干渉であると推測し, 伝搬モードを特定するために短時間 フーリエ変換を適用し、モード分散による遅延を評価した.結果は Fig.3 に示したように、THz 領域の金属中空光ファイバの直線偏波 基本モードである TE11モードの理論値に沿った強度分布に加え、1 THz 以上の領域において TM<sub>11</sub> モードの理論値に沿った強度分布も 確認できた. そこで特定した2つのモードについて次式を用いてモ ード間干渉を考慮したパワーの時間平均Pを導出し、これらの合成 モードの伝送損失を算出した.

$$\bar{P} = \frac{A_{\text{TE11}}^2 + A_{\text{TM11}}^2}{2} + A_{\text{TE11}}A_{\text{TM11}} \times \cos((\beta_{\text{TE11}} - \beta_{\text{TM11}})z)$$

ここで式中のAは各モードの出射光の振幅,βは位相定数を示している.その結果,Fig.2にあわせて示すようにピークの位置が非常によく一致したことから、あらためてTE<sub>11</sub>,TM<sub>11</sub>の二つのモードの伝搬を確認し、本手法によればそれらのモード間干渉を評価可能であることがわかった.

最後にファイバを使用して 0.98 THz に吸収を持つことが知られ ているテオフィリン錠の透過スペクトルを測定した.測定には厚さ 1 mm 程度まで薄く削った錠剤を使用し、薬の後方に密着させるよ うにミラーを設置して、錠剤を2度 THz 波が透過するようにした. 使用したファイバは内径3 mm,長さ10 cm で錠剤の直前に配置し、 ファイバから出射した THz 波は錠剤を往復した後、再度ファイバ を伝搬して検出される.結果は Fig.4 に示すようにファイバを使用 していないスペクトルと同じ高さの吸収ピークが確認できた. 3.まとめ

THz-TDS を用いることによって、中空ファイバの THz パルス伝送特性について評価を行った. 伝搬モードは基本モードが TE<sub>11</sub> モード、2 次モードが TM<sub>11</sub> モードであることがわかり 1 THz 以上の領域では干渉のピークが確認できた. またファイバを用いても明確な吸収ピークを取得できることが確認できた.

## 参考文献

[1] S. Sato, et al., J. Opt. Soc. Am. B 29, 3006(2012)



Optical delay

EO crystal

